

被ばく線量管理システム詳細仕様

I. 導入計画物品及び数量

- | | |
|------------------------|----|
| 1. 被ばく線量管理システム
(構成) | 一式 |
| 1) 被ばく線量管理システム | 一式 |

II. 性能・機器等に関する要求要件は次の通りである。

項目	適用内容
1.	被ばく線量管理システムは以下の要件を必須とする
1-1.	ハードウェア要件
1-1-1	線量管理サーバは、RAID1又はRAID5相当の冗長性を備えた構造であること。
1-1-2	線量管理サーバは、8GB以上のメモリを搭載すること。
1-1-3	線量管理サーバは、Intel Core i7以上のCPUを搭載すること。
1-1-4	線量管理サーバには、バックアップ用のHDDを構成に含むこと。
1-1-5	線量管理システムは、WEB配信にて放射線部門内の電子カルテ端末またはPACS端末×2台での使用を可能とし、不可の場合は専用端末2式を本調達に含むこと。
1-1-6	線量管理システムには既存CT装置（キヤノン製）1台と既存FPDシステム（コニカミノルタ製）3台と接続し、その費用を本調達に含むこと。
1-1-7	線量管理サーバの保管容量は、2020年4月からサーバ本体のサポート期間満了までに必要な容量を実装すること。
1-2.	ソフトウェア要件
1-2-1	各種モダリティ（CT・CR・RF）とDICOM RDSR形式での接続を可能とし、本調達においては既存の一般撮影システム（コニカミノルタ製）と既存のCT装置（キヤノン製）からRDSRを取得し、被ばく線量に該当する情報を保存・管理可能であること。
1-2-2	蓄積されたデータは患者単位の他、身長、体重、年齢、体表面積、性別、検査期間、撮影プロトコルなどの条件をキーに抽出可能であること。
1-2-3	データ検索に於いて、身長、体重、年齢、体表面積等といった指標は範囲検索が可能であること。
1-2-4	各種モダリティ（CT・CR・RF）より送信される付帯情報の中に、身長・体重が含まれている際には線量管理システム側で体表面積やBMIを算出可能であること。
1-2-5	抽出されたデータを基に作成する管理帳票（棒グラフ、散布図、円グラフなど）は当センターと協議の上、最適な帳票作成を行うこと。
1-2-6	当センターで行われた検査の撮影プロトコル及び検査装置毎にCTDIやDLPといった線量の平均値を抽出できること。抽出された当院の平均値とDRLs2015やDRLs2020の値を同一グラフ内で比較可能なこと。
1-2-7	DRLsで規定されていない撮影プロトコルについても線量管理することが可能であり、当センター独自の線量閾値を設定することが可能であること。
1-2-8	SD値とSSDE値の算出が可能であること。
1-2-9	当センターで設定した閾値を超えた場合、既存検像システムに線量の超過情報を連携し、検像システム上で超過アラートを出す機能を有すること。
1-2-10	当センター内の線量教育のため、カンファレンスをサポートする機能を有すること。
1-2-11	CT・RFについて、線量情報を手入力可能であること。
1-2-12	CT装置からの線量情報の取得について、OCRできる機能を有すること。また、当センターの過去CTサマリ画像からOCR可能であること。
1-2-13	一般撮影の写損管理機能を有すること。
1-2-14	CTの臓器線量を計測する機能を有するか、またはWAZA-ARIと連携し、臓器線量の算出が可能であること。

III. 保守・サポート体制に関する要求要件は次の通りである。

- | | |
|-----|---|
| 2. | 保守・サポート体制は以下の要件を必須とする。 |
| 2-1 | 本調達物品の円滑な運用を実現するために、点検、調整及び技術的サポートを行える体制を有すること。 |
| 2-2 | 本調達物品が正常に動作するように、納入後1年間は無償で定期的に点検・調整を行なうこと。 |

- 2-3 納入後1年間は、通常使用により発生した故障の無償保証に応じること。
- 2-4 秋田県内にサービス拠点があり迅速なサポートが行えること。
- 2-5 土日、祝祭日を含め24時間の連絡体制が整っていること。
- 2-6 既存のネットワークを利用し、リモートメンテナンスが可能であること。不可の場合、厚生労働省のガイドラインに準拠したセキュアなネットワーク構築にかかわる費用を本調達に含むこと。
- 2-7 24時間体制のリモートコールセンターを有し、障害発生時には迅速なサポートを行える体制を有すること。
- 2-8 平日【月～金曜日(祝祭日を除く)】 8:30～17:00は、サービス拠点での受付・対応が可能であること。
- 2-9 本調達物品の主要な交換部品は日本国内に有し、迅速な対応が可能なこと。